令和3年1月6日

**今年の稽古初めに**

会員・保護者　各位

日本空手協会小田原支部

支部長　髙橋　資芳

あけましておめでとうございます。年末年始を経て、新型コロナウイルス感染症はますます拡大し、明日か明後日には、緊急事態宣言が再度発出されるような状況です。今後、県や市の判断で公共施設利用の制限も生じる可能性があり、時間短縮あるいはリモート等による稽古となるかもしれません。振り返ると昨年も本当に大変でした。日々、情報が錯綜し、試行錯誤の繰り返しで、数か月を経てようやく目星が付く状況となりました。コロナ禍で、今まで出来ていた色々な事が、思い通りにならない、好きなように出来ない、不自由な日々となりました。先行き不透明で、新型コロナウイルスとの共存を余儀なくされるようになりました。他方、今まで出来なかったことが出来るようになり、諸々の結果として世の中が大きく変化することとなりました。日本空手協会の草原克豪会長は年頭所感で「人間は自分の置かれた環境を意のままに変えることはできません。与えられた状況をあるがままに受け入れ、出来ないことを嘆くのではなく、出来ることを見つけて実践するしかありません。大事なことは、何が出来るかを自分の頭で考え、工夫し、勇気を出して挑戦することです。この機会に、自分は何のために空手を修行するのかということを今一度問い直してみるのも大事なことでしょう。（中略）空手道は文明人の自己鍛錬・人格向上の手段として有効です。学問や知識を身につける必要があることは言うまでもありませんが、私たちはそれだけでなく、「正義」を貫き「公」に奉仕する武道精神を兼ね備えた「文武両道の士」となることを目指しているのです。空手に限らず武道の道を志すことの意味はそこにあるといってよいでしょう。日本空手協会ではこの高い理想に向かって一歩一歩前進するために、「道場訓」の教えに沿って空手道の修行に取り組んでいるのです。空手道の究極の目的は「己に克つ」ことであるとも言われます。いつでも、どこでも、どんなに困難な状況下においても、自分自身をしっかりコントロールできる人間になることです。そのためには技術だけでなく、精神をコントロールすることが重要になってきます。これは簡単にできることではありません。だから空手道にはこれで完成ということがありません。永遠に未完成です。だから生涯空手、生涯武道なのです。年の初めに、これらのことを改めて確認し、そのうえで自分に合ったペースで稽古に励み、心と体の状態を正常に保つよう努めてほしいと願っています。そして皆様の道場が、会員同士の強い絆によって支えられ、ソーシャルディスタンスの時代にあっても誰も孤立することなく、互いに寄り添いながら切磋琢磨し合える場として、重要な役割を果たしていくことを願っています。」と述べられています。植木政明首席師範も同様に仰っています。私も同感で、まさしく自我を抑え我慢し、自己を超越する「押忍」の精神だと思います。達磨大師は、嵩山少林寺において壁に向かって9年坐禅を続けて悟りを得たとされています。日本の諺で「石の上にも三年（いれば暖まる）」と言うものがあります。共通するのは、物事を簡単に諦めずにコツコツと地道に努力することの大切さです。仲間と共に、元気を出して、いろいろと創意工夫をして、挑戦を続けましょう。押忍

**押忍**とは、武道の関係者の間で使われる挨拶の一つ。由来は、旧海軍で「お早うございます」が簡略化され、その結果「オ」と「ス」が残ったもの、或いは大日本武徳会が戦前に京都で運営した武道専門学校の学生の間で生まれたという。元々は「お早うございます」だったが「お早うーっす」→「おす」と縮まり、「押して忍ぶ」（自我を抑え我慢する、の意か）という漢字を当てた結果、現在の形になったと言う。現在は後輩が先輩に返礼する際にも使われているが、本来は先輩が後輩に対するときだけ用いた。

大森敏範は、発祥は戦前の拓殖大学で、由来は相撲の心得で相手の押しに耐えることを「忍（お）す」と言ったことからという説を唱えている。空手界を中心にOSUまたはOSSとして海外にも広まっている。Wikipedia